

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2010 年 10 月 22 日

派遣者氏名（専門分野）	後藤 敦史	（ 日本史学 ）
-------------	-------	----------

派遣期間	2010 年 9 月 2 日	～	9 月 13 日
------	----------------	---	----------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
アメリカ合衆国	ワシントン D.C.	アメリカ議会図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

報告者は、アメリカ議会図書館のマニュスクリプト・リーディング・ルーム（Manuscript Reading Room。以下、MRR と略記）を主に利用した。

アメリカ議会図書館を利用するためには、まず利用者登録を行い、利用者カードを作成することが必要である。アメリカ議会図書館は史料の性格によって様々な史料室があり、それぞれでそのカードを提示する必要がある。

報告者は9月4日から9月11日まで、MRRで史料調査を行った。MRRはアメリカ議会図書館のマディソン館の1階にある。袋類の持ち込みはできず、筆記用具や撮影器具以外は、同室の入口にあるロッカーに預けなければならない。筆記具は鉛筆のみ使用可能で、ボールペンなどインク類は使用できない。また、ノート類など、紙を持ち込む場合には、入口でチェックを受ける。ノート類は、退室の際にもチェックされる。

史料の写真撮影は自由である（フラッシュ禁止）。また、写真撮影をする際に申請書などを出す必要はない。ただし、日本の史料館と異なり、撮影台などはないため、普通の閲覧機で撮影しなければならない。それでも室内は十分に明るいため、特に撮影で困るということはなかった。

史料はそれぞれボックスに入っており、一度に4個のボックスを申請することができる。そのボックスの中に、さらに複数のファイルが入っている。史料整理自体も、史料群の名前—ボックス番号—ファイル、の構造で整理されている。閲覧の際には、1ボックスから1ファイルのみを机の上に置いていいこととなっている。報告者はそれを知らず、複数のボックスから史料を取り出そうとして、ライブラリアンから注意をうけた。史料1点ごとに番号を付しているわけではないので、複数のボックスから複数の史料を取り出した場合、どの史料がどのボックスのものか、分からなくなるおそれがある。こうした事態を防ぐことがその目的であろう。

なお、報告者は貴重書室（Special Collections Reading Room）にも一度訪れた。貴重書室は、MRRよりもさらに厳重で、袋類はもちろん、筆記類や撮影用具も持ち込みができない。当然、史料を撮影することもできず、また、電子複写もできないため、その場で閲覧するしかない。閲覧の際には、史料を置く専用の台と専用の重りを渡され、ページをめくる時以外には史料に触らないようにしなければならない。

MRR、貴重書室など、ライブラリアンは皆、非常に親切である。報告者の些細な質問であっても、どのライブラリアンも真剣に答えてくれた。また、MRRでは、報告者が閲覧したい史料に関連した史料について、こちらから聞く前に情報を教えてくれた。報告者は英語が得意ではないが、日本人であることを先に伝えれば、非常に分かりやすいゆっくりとした英語で話してくれ、報告者も言語で不自由することはあまりなかった。